夕刊
磐城新聞
十月十日發行
定價　一部金五錢　一ヶ月金六拾五錢（郵税[illegible]）
廣告料　普通欄金六拾錢　特別欄金九拾錢（五號十二字詰一行一回　場所指定一行[illegible]增）
編輯印刷兼發行人　柏木[illegible]（福島縣石城郡平町[illegible]町十六番地）
發行所　磐城新聞合資會社
發信電略（タイライワキ）平郵便局私書函第十二號　電話五六四番
〔日曜祭日翌日休刊〕

常磐炭田に於ける炭鑛聚落の研究

山口彌一郎

二、鐵道運輸局石炭、骸炭、石油に關する調査二年十一月

三、常磐石炭鐵道運賃値下同盟會、常磐鐵道運賃引下陳情理由書、昭和七年八月

右によると綴——隅田川驛間石炭一瓩の運賃は大正六年六月一、七八圓、同年七月二、一七圓、同七年二、六〇圓、同一〇年三、二〇圓、昭和五年三、二四圓と漸高し、現在船賃は大連——横濱（撫順炭）一、〇〇〇圓、若松——横濱（九州炭）〇、八〇圓、宇部——芝浦（宇部炭）一、〇〇圓である

三、人口の異動性

一、人口構成　常磐炭田に於ける主要な炭鑛聚落を含む町村は内郷村、磐崎村湯本町、好間村、赤井村等であつて鑛業關係の人口は總人口の夫々四四%乃至六六%を占めてゐる。河野氏の調査に依ると年出炭量に對する人口及び一〇〇瓩當り人口は次の如くである

地方別	人口 千人	年出炭量 千瓩	一〇〇瓩當人
滿洲撫順	五三	七、二五三	〇、七三
樺太	七	六〇七	一、一四
長崎地方	三六	一、三七七	二、〇四
石狩炭田	一五一	五、〇四三	三、〇四
常磐地方	五四	一、七〇七	三、〇七
福岡地方	五三三	一五、三六九	三、四一
佐賀地方	五四	一、一五三	四、七三
宇部地方	七〇	一、四六九	四、八〇

（常磐地方には好間村、内郷村、湯本町の一町二ヶ村を含む）

常磐炭田に於ける炭坑勞働者は二三、二二一人（昭和元年）で一日平均約八、〇〇〇噸の石炭を採掘してゐる、之等の從業者は主として平均二、〇の家族を同伴し、一世帶平均人員三、〇となる。但しこれには數人の働き人を有する一世帶を働き人一人を一世帶と數へたので眞の世帶數を與へない。今標式的な鑛聚落を包含する内郷村を見るに一世帶平均四、五である。これによるも尚ほ福島縣の平均五、五に比し低位で鑛業世帶の特色を觀察し得る。

次に年齢構成をみると一般に於ては幼年者が最多で老年に從つて漸減するが炭鑛聚落に於ては明かに都市型の如く二〇——四〇歳頃の生産人とも言ふべき者が多く玉葱型の構成を示してゐる

二、人口移動性　前記一町四ヶ村に就いて他町村よりの移入人口を見るに夫々六四%乃至七六%を示してゐ、先の鑛業人口に近似なる數を得られる。之等は鑛業の爲の移入人口とも見られ、出炭量、坑夫、家族と相關して移動性を帶びる。炭坑の開發當時は多數の人員を要するが出炭量は比較的少なく家族も安定充實せざる状態にある。之等の移動性の一面に小學校の兒童の移動性に反映し所謂炭鑛小學校の特色の一つとなる

磐女校バザー！

谷口泰弘

第一日の午後二時ころ行つたに拘らず、よほど品物を客にサラワレタ後で、すこし涼しい位だつた。ビラに『先着二百名様かぎり景品進呈』と書いてある、どツかの出張店の商略、音樂堂を覗いて食堂に行くと食券賣切れの狀態。イヤハヤ、景品は貰へず、喉がカワいてもリゼーは飲めず、こんな事なら『午前十時開會と同時に來れば良かつた！』と思つた。

□

テーブル掛け中くらいの一圓、赤いチウリツプの造花が唯の九錢とは安かつた花瓶敷は先づ考へて二十錢の原價、それが二十五錢の賣價。あれでは何うしても儲かる筈なく、ショツプガール代などは見られまいと思つた。これは學校のサービスで、損益を度外視した値段だと思ふ。幾らか儲けの値印では有らうが、手間を考慮に入れた時、引ッむのは素人目にも分る

□

だが學校の宣傳ともなり生徒の實力養成上には、毎年もよほすが賢明と思ふ　第一客種に心配ない、學校出の先輩も居るし、生徒が勸誘した丈で一族郎黨おしかけるし、一般客も市價より安い手工品に期待を持つてゐる。趣味の手藝品、實用ハンドバツク、小兒用ヤケツ其他、多勢の仕事いふは賑かなものだ。みな喜んで動いてゐる

説明を求める客、得意然と雀式に、ピーチクロ上を述べる制服の處女、次から次へ流れる取引は行進曲だ『わたしにも』『僕にも』『手前にも』買ふ方では遠慮せず、賣る方でも無論、どうせ親に費用だして貰ひ、賣上げは自分の小遣ひにでも成ると思ひ、生徒君……潔くしな〳〵を手離す　廊下を行く盛裝した奥さん、邪氣のない少年、紳士にピアノの音樂が追つてくる。

磐新歌壇

小山田滋選

南　大吉

○或る夜半のわれの涙を清めつゝいよゝ冴へ行く月にありけり

○此の日頃いとどものうし我が心人の知り得ぬなやみかこちつ

○かにかくにいと云ひがたき氣持なりはるけき君を想ひし瞬間（とき）は

愛讀者懸賞抽籤

十、十一、十二月三ヶ月分の本紙購讀料領收書と引替に抽籤券一枚を呈上。以上三ヶ月分の前納には新舊讀者を問はず抽籤券即時呈上

一、抽籤　明春一月四日
一、發表　同六日本紙上

賞品

テーブルゲーム　一面宛
一等特大形（一名）　二等大形（二名）
三等中形（三名）

拈華微笑

みづに値上げ。めくら滅法と云ふ奴

◇

左右の非難渦卷くも水なればこそか

◇

何をくよ〳〵井戸端會議、水の流れを見て愚痴る

◇

清空一碧、けふ揚士に第二校女兒の跳躍

◇

郊外穫々の波そよぐ。豊の秋

○……○

街の夜貌

今村利洪

時計は一時針路を斷つた
耳いつぱいに壓して來る
夜の重さ
しだいに障子を這ひ上る
貘の影
夜の音
夜の音
柱をゆり動かす
疊をはがす
無音のどよめき
終焉！
縦横無盡に喰ひ破られた
哀れな姿で
眞夜中の痛さをひつさげた街は
闇をぎつしり詰めたまま
阿房の如く死んでゐる

社會の今日

10月11日

△アントワープ陷落（大正三）△全國の勞働事業調査を行ふ（同一五）△暴徒宜昌の我が海軍集會所に放火す（昭和六）△日支事變海軍側第一回論功行賞公表（同七）

○

コスモスや起きつ撓みつ風渡る　夢仙

繭安く嫁に行く日が又延びた、姉と妹が繭をむいてる　中村孝助

講談

幕末神風組

(24)　土生太郎作　高根秀浩畫

受難（九）

その晩、御木本はグタグタに醉ひつぶれてゐた。

『染香、もう酒はよして、寝る事にしよう』

『アラ旦那、そんな弱いことを言はずに、もう少しおあがりなさいよ』

言ひ乍ら染香はなみ〳〵と盃に酒を充たして、片手を九平太の肩にかけ、片手でその盃を九平太の口へ持つて行つて、グッと注ぎ込む様に飲ませる

『ウム、もう、だ、駄目だそんなにそんなに』

泥の様になつてゐる九平太を、染香はジロリと冷たい眼で見やり乍ら、自分自身もグッと一飲み飲み干した

たわいもなくしなだれかゝる九平太を、あちこちとあしらひ乍らゐるうちに醉ひに堪へられず九平太はその場にグッタリと倒れて前後不覺に眠つてしまふ

やがて高い鼾さへ聞えて來た。染香はほぐれた髪を搔き上げて身仕舞を直すと立ち上つた

椽側へ出た

月が物凄く照つてゐた

銀月から逃げ出して何の爲に此處へ來てしまつたのか、一切夢心地だつた

榎本の同志たちが、神風組に捉へられた佐吉の身の上を考へて、夜の目も心配し續けてゐるのを知つた染香は、どうにかして佐吉を救ひ出したいと考へた

そして何の成算もなくフラフラと來てしまつた築地の神風組の本部、御木本の家の門前を迂路々々してゐるうちに、乾兒の者に見つかつて、到頭座敷へ引き込まれたが、そこは海千山千の染香、うまく御木本を籠絡してしまひ、ウマ〳〵とこゝまで手順が進んだのだが、何はさて亂暴な奴等ばかり揃つてゐる神風組のことうかつなことも出來ないし、このさきどうして佐吉を助け出さうかと思ふと女心の何となく頼りなく思はれて淋しかつた

『何をしてゐる』

染香は物思ひに耽つてゐた矢先後からポンと背中を叩かれて思はずヨロ〳〵とした

『冷えるぢやねえか、こんな處に立つてゐて』

男は上總屋藤七であつた

佐吉を捕虜にしてからといふもの、藤七はずつと居續けに御木本の家に來て酒に浸つてゐたのである

『上總屋の旦那、醉ひざめの風は良いものよ』

『ハ、、、とんだ台詞だ。だが染吉、人の寝靜まる夜中、こんな所にゐては毒だか、俺と一緒に來ねえ』

言ひ乍ら染香の顔を嫌らしい眼つきで覗く

『御親切様、だけどもう少しかうやつて置いて下さいよ、頼むからね』

『毒だと言ふに、いゝから來ねえと言ふに』

藤七は懸命に染香の袖を引つ張る

一度はウンと手ひどく肱で突いてやらうかと思つたけれども、ぢつと堪へた染香は

『旦那、御冗談ばかりはよして下さいよ。他人の見る目もうるさい』

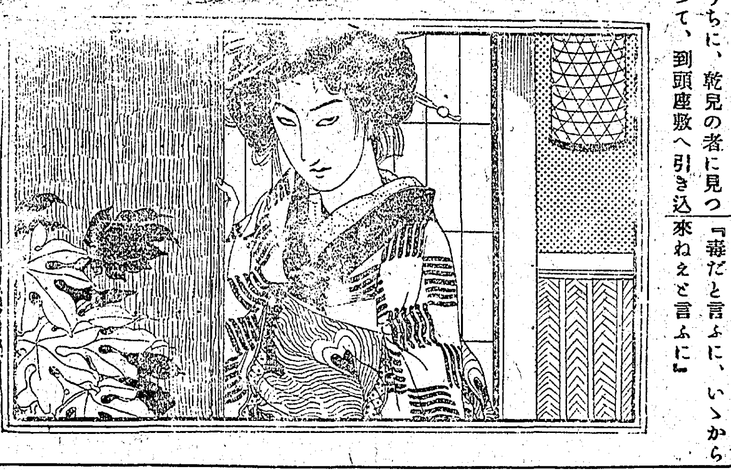
からとやさしくはねる

はねられて藤七は仕方なく手を引き込めて

『ハ、、、御木本の旦那に怒られるのも、藪も無え事だしなあ』

と皮肉めいた言葉を後に行つてしまふ

染香は早く佐吉の居る場所を知りたいと思ふのだが、どこに放り込まれてゐるのだか、皆目知れなかつた下手に踏み込んで失敗でもすれば、それこそ大變だと思ふと輕はずみも出來ず。その夜はそのまゝ事もなげに濟ましてしまはうと決心した



美味で評判の
イワキサロン
平町電三三五二

◈秋の帽子！
●あらゆるお好みに揃へた——●
中野洋品店
平二・電五十三番

上田醫院

前田醫院
院長　前田清美
植田町電話一二四

木村醫院
平町六丁目
電話　三〇九番

安齋外科醫院
平町田町
電四七五番

恐ろしい疫痢の流行期！！
○毎年六月始めより十月と申します。
○死亡率統計百人中六十五人以上として居ります。
まづ豫防に經口免疫の
北里研究所製造疫痢内服ワクチンを
○價格　幼兒一人分　三十錢　大人一人分　五十錢
（文獻進呈）
特約店　西村屋藥局
平二・電3

株主の幸福
一、年四分の報賞金を差上げます（他に利益配當）
一、一世帶貳千圓迄御貸付致します（株券の倍額）
一、株券御不用の場合は證券會社で御引受致し舛
一、御貸付も御返濟も株主本意に御取扱致し舛
一、法律經濟の御相談は無料で御引受け致し舛
◎本店同樣營業を開始いたしました
◎御利用下さい
内郷出張所　内郷綴三
平潟出張所　平潟本町
◎各地代理店募集
福島縣平町十五丁目廿六
常磐商工助成株式會社
電話四六番
振替東京六二九五一番

吉田眼科病院
平町紺屋町

高久病院
平町田町
（電話五三一番）
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科　小兒科　外科　花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科

產科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院應需
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

石炭
コークス
玉炭
ツ
阿部石炭商店
平驛前
電話三七番

生徒募集
奥様方の爲め特に隨意科が設られてあります。
毎日定期に通學の出來ない方々の爲の回數券制度……
磐城女子洋裁專門學院
入學毎月初日
（此の際入學者は隨時入學を許可す）
ミシン無料貸與（材料貸與の方法あり）
平町白銀町十五番地
（詳細―學則郵券二錢）

吸入用酸素　純度99%
度量衡
モノサシ　マス　ハカリ
計量器
体温器　寒暖計
◎秤ノ取緒ノ歪糸ゝ修覆致シマス
開内藥局
電話四〇番

難波醫院
平町新川端櫻堤
醫學博士　難波睦
内科　小兒科
（入院隨時…）
電五〇二
看護婦募集

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
山内醫院
醫學士　山内亨吉
電話六九一番
入院隨意　病室完備

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
久
釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり

需要殺到に應じて 一大增産計劃斷行か

三大炭鑛首腦仙鑛局に會合

最近の炭鑛界は一躍三割近の需要增大に對し供給は其の半にも及ばぬ一割二分方を增したに過ぎず甚しく需給の平衡を失し第三次の送炭緩和が果して如何なる程度の好影響を齎すか或はその効果案外微弱に終るでないかを懸念されて居る程であるが右に關し既往一ケ月間に於ける送炭量に就き報告と實送高を對照する販賣會社と山元との月例貯炭調査は和田仙鑛局監、清宮常磐石炭鑛業會事務長、箱井磐炭、若松入山兩運輸課長、安孫子古河庶務係長により兩三日來執行今十日を以て終了すると同時に所轄仙臺鑛　監督局では最大限の出炭能力其他に就て詳査せんとする資源調査增産計劃の打合せを開催、地方三大炭鑛から菅原磐炭、吉田入山、下野古河各所長が出仙今明中歸山と共に增産に關する新計劃が立案されるものと觀測さる

武道選手詮衡　武德會平分區では廿二日午前九時から福島市新築山武德殿で開催される縣下柔、劍道優勝旗爭奪大會の出場選手を詮衡中である

全國制覇目指して 磐中平商庭球選手出發

神宮大會愈々近づく

既報―過般の縣下明治神宮豫選庭球大會に見事優勝した本縣中等學校庭球界に於けるナンバーワン平商の安島―木田組は來る二十七日より一週間明治神宮コートに於て行はれる全國中等學校庭球大會は本縣代表として愈々二十五日平發午後三時二十三分で室原教諭引率の下に出場する事になつたが平商は府縣對抗大會に大將組として磐中及び田中と共に活　する事になつた、因に磐中、平商のメンバー左の如し

△ダブルス

(平商)木田英夫、安島賢治(磐中)小川亨、川隅英範

△シングルス

(平商)木田英夫、同安島賢治(磐中)小川亨、同川隅英範

△府縣對抗

(平商)木田英夫、安島賢治、(磐中)小川亨、川隅英範

磐中平商競技出場

近縣中等大會へ

磐中、平商兩競技部では來る十七日福島高商主催で開催される近縣中等學校競技大會に出場すべく目下猛練習中であるが出場選手左の如し

(磐中)百米金成令宣(平商)百米齋藤三男、走巾跳―同人、八百米―三部幹夫、千五百米―同人、二百米―蒲田力之助、四百米―同人

レコード作製競技會

平第一校では來月上旬校内公レコード作製競技會を催すが種目左の如し

五十米、百米、二百米、四百米、八百米リレー、走巾、走高、三段、ハードル、ボールスロー

運動會豫習

平第二校では明十一日、第一校では來る十三日何れも秋季運動會を催すので兩校では今十一日午前八時から第二校は音樂附きで豫行演習を行つた

再入札執行

平町有地處分

豫定價格に達せぬ

平土木委員會は昨九日午後一時から開き町有地拂下入札を行つたが前回同樣豫定價格に達せず近く再開に決した

青訓二千餘名の 一大拂曉戰展開

植田で閱兵式擧行

郡下四十六青訓二千餘名參加の郡聯合青年團發火演習は昨報の如く來月二十二、三日の兩日勿來、泉間に於て拂曉戰其他華々しく開催され終つて植田小學校に於て篠山新會長により閱兵式を擧行する、尙使用兵器は輕機關銃五挺其他小銃である

在軍射擊場

來月上旬記念大會

郡在郷軍人會石城分會が經費四百餘圓で神谷村小學校に新設する事になつた標的三個延長二百米の射擊場は一昨八日着工したが竣功は今月末で來月上旬射擊大會を開催する、尙植田方部にも新設すべく計劃を進める事になつた

川村大佐查閱　若松二十九聯隊長川村大佐は明後十二日來平、十三日は平商、十四日は磐中に於て學校教練查閱を行ふので磐中では今十日豫行演習を行つた

輜重兵大隊機動演習

宇都宮から二百卅名來郡

第十四師團宇都宮輜重兵大隊將校以下二百三十名は明十一日から三日間小名濱を中心に機動演習を行ふ

小名濱在郷軍人幹部會　二十二日小學校で開く

稻刈始まる

待ち遠の天候恢復

邪刈の惡弊一掃に郡農會其他が盛に早刈を奬勵して居る矢先生憎兩三日の秋霖に崇られ延び延びとなつて居たが平町東部北白七方面では天候恢復と共に例年より幾分早く愈々今九日より刈始めた

改正使用料金に 値下げ運動起る

水道問題と町の動き

來月一日から實施される平町の水道料金値上は時節柄時代錯誤も甚しいと各方面に囂々の非難が起つて居るが殊に比較的生活の裕ならぬ六、七町目附近の共用栓使用者二百名は非常な生活上の脅威なりとして寄々値下げ運動を協議中であり湯屋組合でも今十日午後一時から仲町錦湯に會同協議の結果率先して陳情運動を起す事に決した

美術展覽會

廿五日より第三で

美友會第十五回美術展覽會は來る廿五日より五日間平第三校新築階上に於て開催するが出陳約六、七十點で卽賣を行ふと

X會成績出陳　磐中X會では來月一日より五日間福島公會堂で催される福島美術協會主催第四回美術展覽會に出陳すべく目下部員一同が製作に精進中である

第一ラヂオ体操　平第一校では昨九日より毎朝會の折ラヂオ体操を行ふ事になつた

養蠶家依然憂色

昨日の最低三圓廿錢

四倉繭市場昨九日の取引は出荷一、二六三貫、最高三、八五錢、最低三、二〇錢、買馴三、五四錢、掛目三五で依然安値を辿り養蠶家を悲觀させて居る

幸運の手紙

再び流行り出す

平町には再たも幸運の手紙が流行し始め各方面で迷惑して居るが昨九日は縣議井上茂作、新川町田中宣治兩氏方に舞ひ込み今十日何れも平署へ屆出た

十三日例會　十三日會は當日マルトモホールに開催、平檢事局三堀檢事の平町地方に於ける最近の犯罪を中心とする雜談と題する講演がある

バザー賣上二千圓

磐女二日間の賑ひ

一昨九日より二日間に亘り盛會裡に終つた磐女校バザー入場者は第一日目男二五五、女一、二〇五　子供一二七〇、第二日目男三八、女三二八、子供一五三、總計三千二百四十九名で賣上げは第一日目一千四百二十四圓四十二錢、二日目五百七十四圓三十錢、計一千九百九十八圓七十二錢の巨額に上つた

平商視力檢查　今十日の視力保存デーに際し磐中、磐女及平三小學校では何れも學校長の注意喚起の講話があつたが平商では講話の外吉田校醫を招きトラホーム、近視眼の檢眼を行つた

局長以下總動員で 高久の簡保開拓

漸時他方面に及ぶ方針

理想の簡易保險二萬口を目指して大童の平局では一昨日曜を期し管內に於て最も不成績の高久村に於て戶石局長以下總動員の下に午前九時から國井醫學士により百餘名の無料健康診斷を行ひ更に午後七時よりは小學校講堂に於て趣旨宣傳の映畫會を催したが此れ亦千三百餘名入場の盛況を呈した　局長は終了後村の有力者と會見諸種連絡をとつて極力向上を圖る事になつたが尙同樣方法により他の不良村をも開拓の方針であると

局長會議

簡易保險失效解約防止對策協議の郡下三等郵便局長會議は既報の如く七日平局樓上に開き前納及團体拂込の奬勵、集金成績の向上に就て協議した

溜り水溢出

磐炭で一名不明

今十日午前九時五十分頃磐炭第三斜坑大畑坑內に於て採炭作業中採掘跡の溜り水が溢れ附近に居た二十七名中二十六名は無事避難したが奥野與左衛門(四四)が行衛不明となり目下搜查中

三坂の山爭ひ　三坂村下三坂佐藤萬五郎氏が新田目、松野尾兩辯護士を代理人として同村佐藤嘉吉、大谷嘉作兩氏を相手取り平支部に提起した同村下山山林十餘町歩(時價二千圓)の所有權確認訴訟の第一回口頭辯論は來る卅日午前十時から中島裁制長係りで開く

江名產組役員會　二十一日午後二時から小學校で開く

各地で美人局も

今日平署へ押送された

お目見得詐欺の素性

昨報　去月十四日平町鍛冶町藝妓置屋玉川事國府田直良氏方から情夫佐藤戶右エ門(三三)と諜し合せて三百五十圓のお目見得詐欺を働き南會津郡田島署に逮捕された郡山市生れ安部かねよ(三七)は今十日平署に押送され目下嚴重取調中であるが水戶市を始め各方面でお目見得詐欺や美人局を働いて居た常習者と判明引續き取調中である

平局娘子團 筑波山登攀

平局女事務員六十餘名の一行は來る十四五の兩日に亘り戶石局長引率の下に紅葉の筑波山に秋季慰安會を催す

豐間產組總會　十五日午後一時から小學校で開く

別れるが厭さに

歸鄉の女を追ふ

平驛に物思ふ若い同志

昨九日午後三時頃平驛待合室に事情あり氣な若い男女あるを平署員が取調ると仙臺市東五番町カフエーエメラルド淺吉二男吉田房之助(二五)同店女給新潟縣南浦原郡神白村生れ新妻ハルノ(二二)で今年四月頃から情を通じて居たが男の親が結婚を許さず女の實父が急死して歸鄉するのと別れが辛く家出して途方に暮れて居たものと判明實家へ照會中

新訓導着任

過般退職した平第一校坂內キノ訓導の後任として新潟より齊藤ユキヲ氏及び休職となつた平第二校星訓導の後任として郡山市金透小學校の濟間兵衛氏目下病氣欠勤中の同校米本訓導の代りとして平町八卷陽太郎氏が本日夫々着任した

泥醉　平町鎌田町佐藤亥之松(三八)は昨九日午後十時頃泥醉して南町料理店前を徘徊通行人に喧嘩を賣つて平署員に檢束された

哀願　水戶市上市生れ土工田中吉次郎(三八)は病氣の爲仙臺市から歸鄉の途中浪江驛で所持金を盜まれ昨九日平町役場に救助方を願ひ出た

谷口氏追善 尺八演奏會

在平尺八同好者より成る平竹風會主催故谷口鹿童氏追善琴古流尺八演奏會は來る十五日午後六時より谷口樓に於て開催するが曲目左の如く入場を歡迎すると

琴古流本曲　一、鈴慕流―阿部晃童　二、松風―藤井透童、琴淺井千代子、三絃遠藤佐喜野　三、須磨の嵐―高橋奐童、琴新妻佐喜柱、三絃遠藤佐喜野　四、さらし―小野靜童、琴遠藤佐喜野、三絃新妻佐喜柱　五、秋の曲―藤井透童、琴新妻佐喜柱　六、秋の言葉―阿部晃童、琴替手遠藤佐喜野、同本手伊藤佐惠喜　七、夕顏―飯高峨童、三絃鈴木佐喜勇　八、松枕―高橋奐童、三絃安藤富美治　琴古流本曲　九、鹿の遠音―飯高曙童

投槍

投書歡迎

敬神崇祖の觀念

◇過般全國的に敬神崇祖週間を定め信仰心の普及を叫んだ理由は其信仰心の偉大な力を以つて當面の非常時局に向つて我が日本國體の擁護に當り外敵あらばそれに應ずるの鐵石の覺悟を檄したに外ならないと思ふ

◇茲に私は磐城青年男女諸君に向つて合掌して神佛を禮拜して下さいと願ふのではない、誠心を以つて職責を負ひ、自己が神佛なれと望むのである。そこに始めて敬神崇祖の觀念が悟つたならば神佛に向つて合掌禮拜して下さいと願ふのである

◇磐城第一の產物である石炭でさい灰燼となるまでには熱となり力となつて人間に貢獻してゐる況や人間が灰になるまでには何等かの事績を國家社會に自己の存在記念として貢獻したいと常に考へる

◇秋季は神社佛閣の祭りが多く賑ひを呈する、今年は例年より參拜者の增加を示してゐると言ふことは誠に結構な次第であつて今後尙は益々其盛んなることを祈つて止まぬ

(利平生)

誤吡府

第一校長を退職して白雲去來の生活に入つた曾我直治氏、最近では湯本、綴、平窪或は仁井田川と毎日氣の向く儘に一竿の風月を娛しんで居るが昨日は丹後澤にあの巨体を現はし尺餘の鯉を釣り上げ丸い目を一層丸くして大滿悅の態は痛快

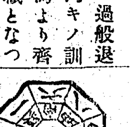
平町慶弔錄

△出生

掘々小路一佐藤信高氏長女ひとみさん

▲死亡

田町五六東京市荒川區日暮里町五町目八四三野日間一(三)岩



舊八月二十二日

水曜　庚戌　大安　建　參宿

新十月十一日

諸判定應需　東京市本鄉區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　他人の依賴を引受くるも成就は困難なる日▲二黑の人　他の言に迷はされず一路常業に直進すべし▲三碧の人　思ふ事成らず意氣消沈して不快に終るべし▲四綠の人　始めの元氣に反して故障のため憂鬱となる▲五黃の人　穩かなるやうなれど隣に不安の潜むが如し▲六白の人　幸運に當りて熱せいなるは益々良化すべき日▲七赤の人　運氣盛にして萬事調達すべし起業えん組亦吉▲八白の人　進退度を超ゆれば氣運は平凡以下となる日▲九紫の人　進んで成らざる事なき日奮勵努力を吉とす

美味で評判の十一屋の
支那そば　金十錢
なべやき　金十二錢
…出前は遠近に不拘迅速に配達…
電話三七三番に御用命を願ます。
平町四丁目郵便局向へ
十一屋　電話三七三番

大藏省允許
磐城無盡
自力更生ノ經濟策
簡易ノ金融
趣味ノ貯蓄
斷然群ヲ拔ク
共存共榮
誠實堅實
平町電話三七八番

開業御挨拶

謹啓　秋冷之候益御清祥に被爲渉慶賀至極に奉存候、陳者小生事暫く休業致居り候處今般先輩知友各位の懇切なる御諭旨と御後援とにより自己本來の眼科專門治療に從事する事に致候に就ては聊か病室等諸般の手順相整ひ專心非才を盡し診療に從事仕候間何卒年來の御厚誼に倍し御聲援相願度乍失禮以紙上右御願旁々御挨拶迄申上度如斯御座候

追而今回の開業に際し同業各位より特に甚大なる御後援を賜り候事は洵に本院の榮譽にして感謝の至りに不堪茲に深く感銘の意を表し居る次第に御座候

昭和八年
九月二十九日
賀澤眼科院
賀澤忠治
平町南町四十四番地電話七二一番

平町外科醫院長　上田耕作殿
同內科醫院長　難波睦殿
同小兒科醫院長　若松信吾殿
同內外科病院長　市原卯太郎殿
同內外科病院長　松村鐵郎殿
同內科醫院長　金成忠義殿
同產婦人科院長　木村寅次郎殿
同外科病院長　諸橋鐵彌殿
同內科醫院長　川井重之殿
同眼科醫院長　鈴木亮殿
同內科醫院長　渡邊久殿
同外科醫院長　木村淳殿
同外科醫院長　安齋徹殿
同耳鼻咽喉科醫院長　山內亨吉殿
同耳鼻咽喉科醫院長　鈴木正男殿
內鄉村外科醫院長　島田彙吉殿
小名濱內科醫院長　中村三良殿
四倉町內外科醫院長　木村守江殿
四倉町內外科醫院長　額賀襄殿
植田町內科醫院長　片岡章殿
植田町前科醫院長　前田清美殿
古河炭鑛醫局長　原重熊殿
磐城炭鑛醫局長　曾田政次郎殿
小野田炭鑛醫局長　草野道平殿
入山炭鑛醫局長　增山茂吉郎殿
双葉郡富岡町內外科醫院長　井戶川典隆殿
同廣野內外科醫院長　野村智迎殿
同熊町內外科醫院長　木村濟治殿
茨城大津町內外科醫院長　市原陸郎殿
同磯原外科醫院長　內瀧五郎殿
―(順序不同)―

御華客樣本位の弊店で今回『ひな鳥水たき』『季節の松茸料理』を始めました。何卒御尊來御試食の程御待ち申して居ります。

ひな鳥水たき
季節の松茸料理

◎料理は毎日献立を替ねて調理致します。
◎御宴會、出前は如何樣にも御相談に應じます。

平町字紺屋町
割烹部
住吉屋本店
電話一五九番